令和２年１０月１１日
NPO法人四季の森里山研究会
小野、上野、下田、江頭

里山の果実と種子

１，果実と種子

花にはめしべがあり、めしべの付け根を子房と言います。めしべに花粉がつくと子房がふくらみ大きくなったものが実（果実）、子房の胚珠が熟したものが種子です。

熟すにつれて水分を多く含むようになるものを液果（えきか）と言います。

リンゴ、モモ、カキ、ブドウなど

熟すにつれて水分を失い乾いてくるものを乾化（かんか）と言います。

クリ、クルミなど

これらは被子植物の例です。

一方裸子植物（胚珠がむき出しになっている）は果実を形成しませんが、被子植物と同様に種子のそばに食べられる部分を持つことで、動物を通じて種子を散布することができます。　　マツ、イチョウ、スギ、ソテツなど

２，種子散布

①風散布　・種子に綿毛をつけて……ガガイモ、センニンソウ、ガマ
　・　〃　翼をつけて　……アキニレ、ヤマノイモ、イロハモミジ
　・　〃　葉や枝をつけて……ケヤキ、ケンポナシ
②水散歩　・水に運ばれる　……ジュズダマ、ハス、シナサワグルミ
③自動散布　・自分の力ではじける……ツリフネソウ、オシロイバナ、ツユクサ
④動物散布　・人や動物にくっついて……ムスビトハギ、ミズヒキ、イノコヅチ
⑤被食散布　・野鳥や獣に食べられて……ニシキギ、カラスウリ、ヤマボウシ、アケビ
⑥貯食散布　・野鳥や哺乳類が蓄えるため…クヌギ、コナラ、エゴ
⑦アリ散布　・エライオソーム付きの種子をアリに運ばせて……スミレ、カタクリ

３，森林のもつ超音波効果

人間の耳に聞こえる音は２０Ｈｚから２０kHzまでで、この領域を超える超音波領域の音を動物（哺乳類、鳥類、昆虫など）は熱帯雨林では２００kHzまで、日本の森でも８０kHz程度まで存在することが超音波測定によりわかってきた。

スズムシは人に聴こえる以外の超音波も発信、コウモリの４０kHzのレーダーなど

熱帯雨林の森林の音などを浴びていると体が反応して基幹脳（脳幹、視床、視床下部）が活性化し、アルファー波が増大し、免疫力が上がり、ストレスが減ることがわかってきた。また、インドネシアのガムラン音楽は１５０kHzまでの音の広がりがあり精神を安定させ、うつ病などの治癒効果があるとして以前から注目されてきている。

※次回は１１月８日(日)「色づく里山で見られる花」を予定しております。